



第7回 JAPAN YARN FAIR

NEWS No.1 平成22年1月28日

第7回ジャパン・ヤーン・フェアを2月3日～5日に開催

(財)一宮地場産業ファッションデザインセンター(FDC)は2月3日～5日の3日間「第7回ジャパン・ヤーン・フェア(JY)」をFDCで開催する。今回は糸商社、紡績業、意匠撚糸業など45社が出展、最新の素材を多数展示する。尾州産地を始め、全国の織物産地、ニット産地から約3,000名の来場者を見込んでいる。

JYは平成16年2月、FDCの開館20周年特別事業の周年企画として開催されたが、わが国で初めて開催された大型総合ヤーン展として注目され、全国の産地から4,065名が来場するという盛況な催事となった。谷一夫FDC理事長(一宮市長)らFDC幹部が「尾州産地をはじめ全国産地の強いニーズ」に応えるかたちで、継続開催しているもので、今回が7回目。

毎回行う来場者アンケートでは「次回も来る」が90%近く、出展者も90%以上が「次回も出展したい」という、高いイベント効果をあげているが、過去3回からはヤーン展であるにもかかわらず、アパレルや小売店の来場も目立つようになった。特に6回目には185名、6%ものアパレル・小売店関係者が会場を訪れた。

これはアパレル製品の洪水的大量輸入状態の中で、商品の同質化・均一化を避けて国内企画の差別化ヤーンを使用したPB(プライベート・ブランド)商品づくりの動きが強まっているため、6回目はテキスタイルメーカーがアパレル・小売店を帯同するケースが目立った。

今回の見所は深刻な消費不況の中で、出展者は「新たな需要を喚起するヤーン」をどれだけ出品できるかであり、来場者は「脱同質化・均一化素材にポイントをおいたオリジナルヤーンの発掘」するかである。リーマンショック以来の消費不況が2年目に入っており、出展者も来場者も待たなしの状況で、「売れ筋」と「新規の需要開拓」につながる素材をめぐって真剣な商談が展開されると期待している。

<参考資料>

J B 来場者数推移	第6回来場者内訳	第6回成果
第1回 4,065名	テキスタイル 36%	サンプル 2,371点
第2回 3,045名	商社・問屋 26%	現物受注 115点
第3回 2,927名	アパレル・小売 6%	
第4回 2,974名	その他 32%	
第5回 2,882名		
第6回 3,014名		

この件に対するお問い合わせはFDC事務局まで(0586-46-1361)

出展各社の特徴はこちらまで <http://www.fdc138.com/fashion/promotion/jy/index.html>